

- 実施主体 環境省阿蘇自然環境事務所
阿蘇草原再生協議会草原環境学習小委員会
- 実施場所 阿蘇市郡内小学校、地元牧野、青少年交流の家等
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月末



◇背景・ねらい

阿蘇地域の全ての子どもたちが、草原に関する一定の知識をもち、阿蘇の草原保全に対する理解を深められるよう、基本プログラムや草原環境学習導入DVD等を活用し、学校教育における草原環境学習導入の拡大と地域学習として定着に向けた仕組みづくりを行う。

また、草原保全活動センター草原学習館を草原環境学習の窓口となるよう学習小委員会でも活用し、地域の方々に広く知ってもらおう。

◆実施概要

- ・草原環境学習基本プログラム集の活用継続して取り組み、阿蘇郡市内の13校で実施し、延べ428名が参加した。(重複分除く)

※平成28年4月から、坂梨小、古城小、宮地小は統合して一の宮小学校に、尾ヶ石東部小は阿蘇西小学校と統合し、阿蘇市内の学校数が9校→6校になった。

【実施一覧】

- A-1：阿蘇のカルデラと草原の成り立ちを学ぼう／3校4～6年生81名
- A-2：あか牛と草原について学ぼう／3校3～5年生134名
- A-3：草原のススキで野草紙を作ろう／9校1～6年生246名
(卒業証書：6校1～6年生157名、ハガキ：3校4・5年生89名)
- A-4：阿蘇のススキを使って人形を作ろう／3校3・4・6年生65名
- A-5：野焼きについて学ぼう／4校4～6年生191名
- A-6：草原のいきものについて学ぼう／6校1～6年生209名
- A-7：草原が育んだ文化について学ぼう／2校4・5年生114名



A-1 米塚洞窟にて



A-4 フクロウ作り



A-6 町古閑牧野にて

◆実施体制

- ・地元牧野組合、阿蘇火山博物館、阿蘇ジオパーク推進室、阿蘇青少年交流の家、阿蘇グリーンストック、九州バイオマスフォーラム、阿蘇自然環境事務所

◆成 果

- ・10本のプログラム中7本を実施。プログラムの「A-8『九州の水がめ、阿蘇』について学ぼう」と、応用編の「B-1 草原の危機について学ぼう」「B-2 草原を守るためにできることに取り組もう」は、総合学習の時間が減ったこともあり、実施されておらず、継続的な深い学習に結びつけることができなかった。
- ・草原デジタルずかんは2種類増えた。
- ・草原学習館を地域の方々に知ってもらうために、体験学習の雨天プログラムでの利用を予定していたが、天候に恵まれたため利用する機会がなかった。

◆実施者の感想

- ・阿蘇ジオパークと連携し、事前学習と体験学習を行った。お互いの知識を持ち寄ることで火山と草原の成り立ちがイメージしやすく、分かりやすく伝わったと思われる。
- ・草原学習館を事前学習等で利用してもらえるように学校にも働きかけていたが、バスを使って移動時間をかけることは、やはり難しいと思われる。